

南ガス回廊の拡張計画

1 2 月 11 日、今年で 7 回目となる南ガス回廊閣僚級諮問委員会(2015 年からアゼルバイジャンと欧州委員会が共同で毎年開催)がオンライン形式で開催されました。

同委員会の参加国・機関は回を重ねる毎に増え、今年はアゼルバイジャン、米国、英国、ジョージア、トルコ、ギリシャ、ブルガリア、セルビア、ボスニアヘルツェゴビナ、クロアチア、ハンガリー、モンテネグロ、ルーマニア、北マケドニア、イタリア、トルクメニスタン、世界銀行、欧州復興開発銀行、アジア開発銀行、欧州投資銀行、アジアインフラ投資銀行、BP 他 18 社の代表者が出席しました。

2 昨年 11 月に南ガス回廊の最終区間となるアドリア海横断天然ガスパイプライン(以下 TAP)の商業稼働が開始し、アゼルバイジャンからイタリアまでを繋ぐ同回廊の全線が開通しました。既に TAP を通じてギリシャ、ブルガリア、イタリアへのアゼルバイジャン産ガスの供給が始まっており、同回廊はロシア等を介さない新たなガス供給ルートとして欧州から期待されています。

3 同委員会に出席したアゼルバイジャンのシャフバゾフ・エネルギー大臣によれば、今年は同回廊を通じてジョージアに 10 億立米、トルコに 80 億立米、欧州に 50 億立米以上が供給される見込みです。また 2023 年までに TAP(年間輸送能力は 100 億立米)をフル稼働させる計画があることが紹介され、今後同パイプラインを通じた欧州へのガス供給量が増えていく見込みです。

4 南ガス回廊から分岐するガスパイプラインを建設することで、欧州においてアゼルバイジャン産ガスの新たな輸出市場が形成される動きもあります。同委員会では、イオニア・アドリア天然ガスパイプライン(IAP:アルバニア～モンテネグロ～クロアチア間)の建設に関して協議がなされました。また、委員会の出席者からは、ギリシャ・ブルガリア大陸間パイプライン(IGB:ギリシャ～ブルガリア間)の早期完成(注:2021 年に完成予定)への期待が述べられると共に、セルビア及びハンガリー国内でのガスパイプラインの建設の進捗状況が説明されました。

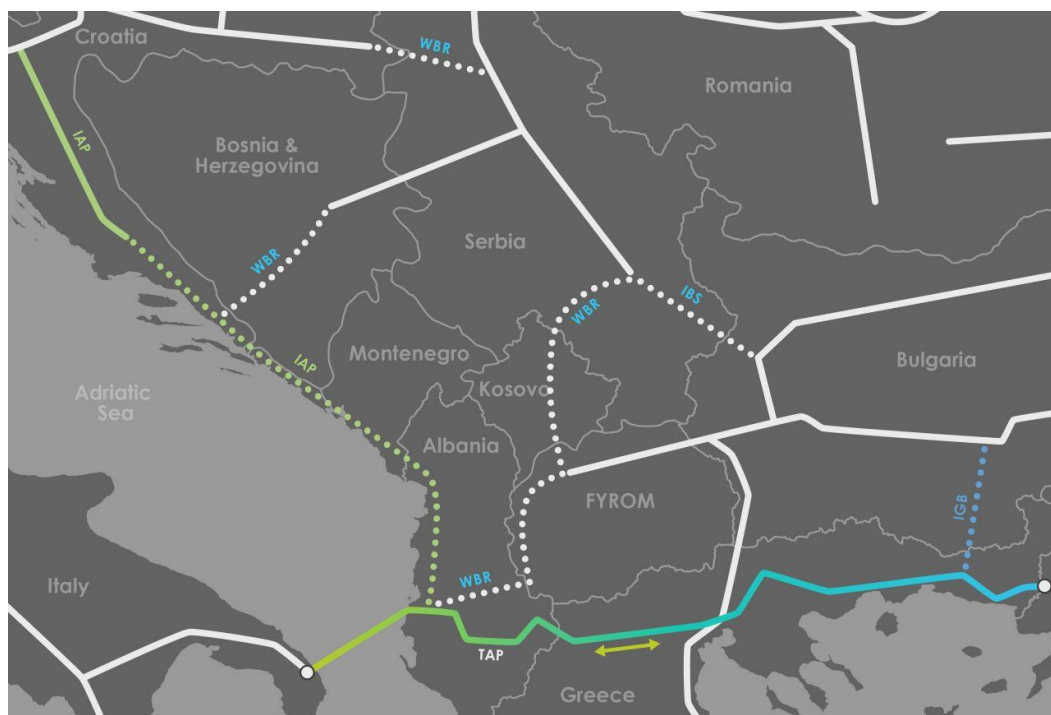
5 輸出先の拡大と並行して、新たな供給源も模索されています。アゼルバイジャン国営石油会社(SOCAR)のナシロフ副社長は、新たなガス供給源として、アゼルバイジャン領内で開発されるガス鉱区と共に、トルクメニスタンやイスラエルを挙げています。同副社長は、本年 1 月に

トルクメニスタンとの間でカスピ海沖のドストルック(友好)鉱区での炭化水素資源の共同探査及び開発に合意したことにより、今後、同鉱区産ガスが南ガス回廊で輸送される可能性に言及しています(注:本合意によれば、同鉱区で採掘される炭化水素資源の7割がトルクメニスタン、3割がアゼルバイジャンに配分されます。更に、同鉱区から国際市場への輸送には、アゼルバイジャンが保有する既存の輸送システムが使用される由です)。

また、同副社長は、イスラエルも新たなガス供給源となる可能性があり、同国産ガスをトルコに運び南ガス回廊に流し込むことは、東地中海から欧州へのガス輸出において、最も商業的実現可能性が高いオプションであり、SOCAR はこれをサポートする旨言及しています。

今後、南ガス回廊の拡張に関連し、関連国との契約やプロジェクトが如何に進んでいくかが注目されます。

参考:パイプラインルート



出所:TAP コンソーシアムウェブサイト

(以上)